

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

湖鳥会会報

第5号 平成8年12月 鳥取市湖山町南4丁目101番地
鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会 湖鳥会



新築校舎の建築工事風景。平成9年4月から電気電子工学科が移転予定。(平成8年10月撮影)

<目次>

- 学科長あいさつ
- 講座主任あいさつ
- 退官教官のことば
- 学生の海外渡航記
- 社会人ドクターの声
- 同窓生の声
- 平成7年度事業報告および平成8年度事業計画
- 平成7年度決算報告および平成8年度予算案
- 湖鳥会からの連絡

電気電子工学科からのメッセージ

平成8年度 鳥取大学工学部 電気電子工学科長
西守 克己

昨年度の工学部創設30周年記念事業に御協力ありがとうございました。電気電子工学科もこれで立派な一人前として自立発展の時期を迎え、いろいろな成果の収穫に忙しくなって参りました。本学工学部の博士後期課程設置より早や3年目になり、当電気電子工学科卒業生から、念願の博士の学位を取得される方々が来年3月には誕生いたします。これもひとえに皆様方、卒業生の実社会でのためまぬ御努力のお陰と感謝いたしております。

さて、電気電子工学科は来年3月には新築成った6階建校舎に一齐に移転することになっております。その外貌、間取り等は次号に待つとして、現在はその準備に忙しくいたしております。これが一つの大きな節目となり、教官、職員ともども心身ともに新たに元気をだして、教育・研究に邁進したいと誓っております。教育、研究、就職等における概要は歴代の学科長からのメッセージで触れられておりますので、ここでは申しませんが、徐々にですが、本年の就職状況も良くなりつつありますので御安心ください。

鳥取へのアクセスも便利になりました。東京からは飛行機で1時間10分、大阪からは智頭急行で3時間以内に鳥取へ来られるようになります。近くに來られたときには、新棟移転でどのように変わったかを実際に目で確かめて見られてはいかががでしょうか。お待ちいたしております。今流行のインターネットにも当学科のホームページ(アドレス:http://ampere.ele.tottori-u.ac.jp/ele_home.html)を出していますから、是非ご覧ください。いつまでも陸の孤島だと思っはけませんか。そんなことはありません、徐々にですが変わりつつあります。最後になりましたが、いつでも鳥取大学電気電子工学科出身であることを忘れないで、大いに実社会で活躍されんことを願って止みません。



博士後期課程のご案内

鳥取大学大学院工学研究科博士後期課程
情報生産工学専攻
電子情報システム工学講座
講座主任 大北正昭

鳥取大学大学院工学研究科博士後期課程（旧博士課程）が平成6年4月に発足し、早いもので、3年目を迎えました。今年度末には、本研究科における初めての博士（工学）号取得者が誕生する予定で、誠に意義深く、関係者にとっても大きな喜びであります。

本博士後期課程では、独創的かつ先駆的な研究を推進できる高度な研究者および社会の多方面の分野で活躍できる広い知識と応用力を有する技術者・研究者を養成することを目的としております。

本課程は、情報生産工学専攻、物質生産工学専攻、社会開発工学専攻の3専攻で構成されております。電気電子工学科に最も関係のあるのは、情報生産工学専攻のうちの電子情報システム工学講座であります。

電子情報システム工学講座は、さらに、回路システム工学、情報電子工学、電子デバイス工学、電子物性工学の4つの研究分野からなり、回路、情報、コンピュータから超伝導、半導体デバイス、電子物性、材料制御技術に至るまで、現在のテクノエイジを支える最先端の分野をカバーしております。

現在、本講座には、博士後期課程1年次生5名（社会人4名、外国人留学生1名）、2年次生6名（社会人5名、外国人留学生1名）、3年次生7名（社会人5名、外国人留学生1名、博士前期課程修了生1名）計18名が日夜研究に励み、種々の成果をあげております。内訳の数字でもおわかりのように、社会人からの入学生を多く受け入れているのが本研究科の大きな特徴であります。これは、職場に籍を置いたままで、本学の学生でもあるという制度であります。そのために、研究の進め方、授業形態に弾力性をもたせて実施しております。

本専攻の開設以来、学生募集を、年2回、第1次募集を8月下旬、第2次募集を2月上旬に実施しております。社会人特別選抜の場合、入学試験を、これまでの研究経歴、実績とその内容および今後の研究計画について、口頭試問の形式で実施し、筆記試験を免除しています。学部卒業で社会に出ておられる方に対しては、上記の入学試験の前に、出願資格認定審査を行い、博士前期課程（旧修士課程）修了程度の研究経歴があるか否かの審査をしております。

本研究科で、博士号取得を考えておられる諸君の関係教官へのご連絡をお待ちしております。また、入学案内もできておりますので遠慮なく請求して下さい。

（TEL:0857-31-5699, FAX:0857-31-0880, E-MAIL:mohkita@ele.tottori-u.ac.jp）

1996.10.13 量子物性研究室 大内 伊助

昨年、新任教官の自己紹介を書きましたが、今年は退官教官の一言を書けと言われていささか戸惑っています。工学部には2年間お世話になる筈で、まだ半年残っていますので、ちょっとまだ、この種の文は自分では書く気分にならないのですが、そうはいっても先日、3月末には退官という辞令をもらったことも確かです。諦めて(?)パソコンに向かっていきます。

2年間という期間は、勤務期間としては長いものではありませんが、しかし、短いわけでもありません。早い話が、大学院の修士課程(現在では、博士前期課程)は2年間ですし、その間に充分一つの仕事が出来た期間です。その意味では、3月までにどれだけ仕事が出来たかを考えると頭が痛くなりますし、学生諸君の指導も行き届いていないのではないかと危惧します。しかし、個人的な体験としては、一般教育を中心とした教務なども含めていろいろやらせていただきましたし、今年は、国際会議以外に、韓国物理学会での講演、タイのナレスアン大学での講義なども経験させていただきました。あと、いろいろ残っていることを考えると、多少、処理能力を上回っているような気がしますが、半年で何とか収束したいと思っています。

ところで、同窓会にもいろいろな種類があります。小学校の同窓会もあれば、高校のもあり、大学全体の同窓会もあります。しかし、大学の学科の同窓会というのは、会員の体験の共有性と職業上の関連度という点では、他の同窓会より— 俗な言い方をすると — 利害関係が共通しているのではないかと思います。実社会の生活で— それも大部分の方は企業に勤めて居られると思いますが、その職業上の活動で— ちょっとした知恵や情報や顔が欲しい場合がときにありますが、そういった時に、すくなくとも、自分の望んでいることを理解してもらえというのが学科の同窓の人でないかと思います。それに、実際にそういった相談をすることも勿論あるでしょうが、そういうことの出来る可能性があるのだと思っていることが、何となく普段の行動の自信や余裕に連なっているという間接的な効果も大きいものです。こういったためにも、同窓会は後続の会員が増え、しかも、その質が高くなる— 少なくとも、低くならない— ことが肝要で、この点、教官としてどれだけ貢献出来たか、忸怩たるものがあります。最近では、本学も開かれた大学に力をいれており、地域共同研究センターを始め、よく、講演会などもやっています。そういった機会も利用して時々大学にも出入りされることをお勧めします。一例ですが、年明けの1月14日(火)には”高分子の量子物性”というマイクロシンポジウムを地域共同研究センターで行います。高分子の世界も電気電子とは密接につながっていますので、覗きにお出でください。ご連絡いただければ詳細をお送りします。

最後が宣伝めいて恐縮ですが、皆さんのますますのご活動を祈念して筆をおきます。

学生の海外渡航記

平成8年度から工学部同窓会で新たに設けられた海外研修奨学金制度を利用して海外において交流活動(国際会議における発表)をおこなった学生の手記を掲載します。電気電子工学科からは以下の3名がこの制度を利用しました。紙面の都合上、そのうち2名の手記を紹介します。

氏名	学年	渡航先	目的
来間一郎	M2	ドイツ	IWIOE 発表
原田光徳	M2	ドイツ	IWIOE 発表
森山敏明	M1	ギリシャ	WCNA-96 発表

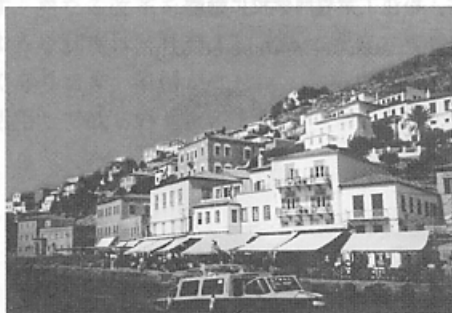
WCNA-96 (1996.7.10 - 17)

平成8年度 電気電子工学専攻入学 M1 森山 敏明

ギリシアで行われた"WCNA-96"(7月10~17日)に出席するため、7月9日、関西国際空港より日本を発った。

ギリシアに着いた翌日、下見と雰囲気を味わうために発表会場であるアテネ大学に行ったのだが、その建物の大きさに圧倒された。また、中はとても広々としており、廊下や階段の幅は鳥取大学の倍はあろうかというぐらいあり、部屋の数もとても多く、その大きさも様々であった。こういうのを大学というのだろうかと感じた。

発表までの間、観光などしてだいぶリラックスしていたつもりだが、いざ発表となると緊張してしまい、発表用の原稿とOHPしか見えなくなっていた。そして、20分弱の発表は、何かよく分からないままに終わっていた。いざ質問だと思っても、結局、質問もコメントもなし。司会者の"Thank You."の一言で終わってしまった。発表する前は、質問しないでほしいと思っていたが、いざそうなると、何か物足りなさを感じた。まあ、このセッションの人は、全員分野が違う人だったので、仕方がないといえば仕方がないのであろう。



ギリシャの街 (96年7月, 森山君 撮影)

発表という最大の難関が過ぎ去ったあとは、ギリシア観光や、学会主催の夕食会、ツアーなどに参加したりと、いろいろと遊びまわっていた。学会が終わると、イタリアのラルデレロ地熱発電所へ見学に行くため、イタリアのフィレンツェへ行った。フィレンツェにある大聖堂は、とても大きく、見事な彫刻で飾られており、ギリシアで見た神殿や彫刻と違ったすばらしさを感じた。ラルデレロ地熱発電所は、地熱発電所としては世界的に有名であり、 nearby に発電施設を見学でき、とてもよい経験であった。

日本に戻ってきたのは7月25日だった。海外で過ごした17日間、初めての海外、初めての学会と何もかもが初めてのことで、緊張の連続であったが、鳥取にいたらできないようなすばらしいを数多く体験できた。今回の旅行で得たすばらしい体験を今後役に立てていこうと思う。

IWIOE (1996.8.13 - 15)

平成7年度 電気電子工学専攻入学 M2 原田 光徳

1996年8月13日から15日にかけて、ドイツはベルリンにおきまして、第8回 *International Workshop on Inorganic and Organic Electroluminescence* なる国際学会が開催され、幸運にも参加することができたのであります。語学力に長けているわけではなく、ましてや小心者の私にとっては、正直申し上げて、期待よりも寧ろ"不安"という事の方が強く、直前まであまり気が進まないという具合でした。しかしながら、いざ参加してみれば何の事もなく、不安は消え、喜び多き事となった次第であります。遭遇する事々、私にとっては新鮮で、自分の人生観すら変えてしまう経験でありました。どんな仕事についても、何を目指しても、少しでも向上しよう等という気持ちが強いほど、困難に付きまとわれ苦しみが続いているものだと思います。困難は自分の影のようなもの。陽のあたる明るい場所にいれば影が濃くなるように難しさというものは増してくるでしょう。人間は臍曲りで天の邪鬼な所があり、困難な状況が予測されるような事柄には挑んでみたくなるから不思議です。困難は、人を怯えさせ、尻込みもさせるが、奮い立たせてくれます。そして、困難を克服し、乗り越えたときの喜びはなにものにも代え難いものとなるでしょう。

今回の海外での経験は、ありきたりではありますが、私にとって非常に有意義で且つ貴重なものであり、飛躍のために与えられた絶好のチャンスであったと感じている今日この頃であります。

社会人ドクターの声

鳥取大学工学部に平成6年4月に博士後期課程（一般にはドクター・コース）が設置されたのはご存じだと思います。本年度は初めての学位授与者が出るようです。ここでは、記念すべき第1期修了予定者の中から、湖鳥会の会員で社会人ドクターとして再び大学に来ておられる方の記事を掲載いたします。

川上孝志@鳥取三洋電機（株）

昭和49年3月（第6回）電気工学科卒業

現在、鳥取三洋電機（株）に勤務。

E-mail: tkawaka@tt.sanyo.co.jp



電気・電子工学科同総会の皆様、お元気ですか。1974年に卒業して早や22年が経とうとしています。卒業後はすぐ三菱電機（株）へ入社。約10年間勤務いたしましたが、都合により84年にUターン。今は、鳥取三洋電機に勤務しております。（三菱電機では鳥大卒業生の方に大変お世話になりました。鳥取で元気にやっています。）

さて鳥取三洋電機は今、テプラコードルスでご存じの方も多いたと思いますが、電話・パソコン・FAXなどの情報通信関連機器、並びにLCDやLED・半導体レーザーを中心とする部品事業を展開中で、鳥取県を中心企業として、大手の電機メーカーに負けないよう、鳥取大学を卒業の技術者を中心に頑張っております。

ところで私は今、研究開発部に所属しておりますが、ここではこれからの鳥取三洋電機の主力となる新製品の開発を行なっています。また、数年前より鳥取大学工学部と色々なアイテムで共同研究も進めています。このような中、94年に新たに設立された博士後期課程（ドクターコース）に社

会人入学する機会を得ました。現在、情報生産工学専攻の学生として3年目（最終学年）を迎えました。20数年ぶりの鳥大生として当時とは全く違う環境ですが（大学の中も自分自身も）、会社と学校を往復しております。当時は余り勉強したという記憶がありません。むしろ、酒、パチンコ、マージャンといった気のあった仲間どうしのつきあいが主であったような気がします。それに比べ、最近の学生はまじめです。（勉強しているかどうかは別にして、）

大学を卒業され、社会人として、特に設計研究開発部門へ勤務されている方は、今一度、鳥取大学のドクターコースを検討されてはどうでしょうか。何か新しいことに対し自分自身でチャレンジしてみることも大切です。若いうちなら出来ると思います。でも年を取るとこれもなかなかきついです。会社と大学、家庭や地域活動、色々な功でのつきあいもありますし、無事卒業できるかどうか...

鳥取大学は今、躍進しています。木々は大きく育ち、新しい駅が出来。中でも工学部が一番大きく変化しています。是非自分のくぐった門を今一度尋ねてみてください。何か新しい発見があると思います。

末筆になりましたが、同窓会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

築谷 隆雄@松江高専

昭和49年3月（第6回）電気工学科卒業

現在、松江工業専門学校に勤務。

E-mail: tsuku@ee.matsue-ct.ac.jp



博士後期課程に入学して

私は、昭和49年4月、卒業と同時に松江高専に勤務いたしました。現在、電気工学科において、回

路理論、電子計算機工学、計測工学などの教科を担当して教育活動を行っています。

研究活動については、当初、線形システム理論に関する研究を行っていましたが、現在は、副井裕教授の指導のもとに能動フィルタの回路合成に関する研究を行っています。

博士課程への入学は、今まで行ってきた研究に区切りをつけたいという気持ちもありましたが、40歳を過ぎ、後半の人生に対する一つの刺激と考えて決意しました。初年度は、易しそうな5つの教科を選んで受講しました。しかし、与えられた課題は内容が難解であり、頭の固くなった私にとっては大変苦しいものでした。夏の暑い盛り、ねじりハチマキで勉強した結果、担当教授の厚意もあり全教科の単位を修得することができました。その中で、ニューラルネット、ファジー理論などの基礎知識を習得できたことは、今後の研究に対してプラスになるとと思っています。

現在、最終年度を迎えています。講座のスタッフの協力もあり、序々に研究成果が現れています。また、いくつかの国際会議も経験し、楽しみながら研究を行う味も覚えました。この夏を利用して博士論文をほぼ書き上げましたが、厳しい審査を控えており、まな板の上の鯉の心境です。一般に、社会人が実務と平行して研究を行うのは大変なことであり、3年間の過程は少し短いように思えます。また、経済的にも負担が大きく、社会人に対しても授業料減免などの制度が適用できればと思います。更なる改革を切望しています。しかし、このような制度は、社会人にとって大変有意義なものであります。事情が許せば、卒業生諸氏も大いに活用して欲しいと思います。



宮田 仁志@米子工業専門学校

平成2年3月(第22回)電気工学工学科卒業

現在、米子工業高等専門学校に勤務。

E-mail: miyata@yonago-k.ac.jp



博士後期課程に入学させていただいて、今年で3年目となりました。社会人学生とはいえ、あらゆる面で半人前の私ですが、演算制御研究室の先生方のご指導、学生の皆さんのご協力のもとで、なんとか今日まで続けさせてもらっています。研究の方では、ファジィ理論と自律移動ロボットに関するテーマをいただいています。どちらも国内外で広く研究されている分野であり、多くの優れた成果が報告されていますので、それらに劣らない独創的な研究に取り組んでいきたいと思っています。思い起こせば私の場合、入学当初から大変恵まれた環境にありました。まず第1に、修士課程修了からほとんどブランクなしに博士後期課程へとつなげていただきました。おかげで、修士課程在学中より、継続して同じ研究分野をやらせていただいております。第2に私の勤務地である米子市と大学のある鳥取市間がわずか100Km足らずであり、大学に通うことが苦になりません。これにより、研究の細部にわたって直接ご指導いただくことができ、ありがたく感じております。第3に、私の博士後期課程への入学に際し、高専内部でも、快くご理解をいただきました。各高専でそれぞれの事情はあると思います。しかしながら、助手等、特に若い高専教官の方にとっては、またとないチャンスです。積極的にこの制度を利用してほしいと思います。

同窓生の声

この欄には同窓生から湖鳥会に寄せられた記事を掲載します。編集委員会から頼んだ記事が多いのですが、それら寄せられたものを内容を改竄することなく載せることを趣旨としています。記事は大学在学の各理事等に電子メールや郵便で届いたものを載せています。

山下政美様から

昭和 47 年 3 月 (第 4 回) 電気工学科卒業

現在、リコーマイクロエレクトロニクス(株)勤務。

E-mail: yamashita_masami@rme.grp.ricoh.co.jp

「湖鳥会」も設立して早くも丸四年が経ち、巡航速度に入った感じです。次は「支部」も結成して行こうではないか、ということで今年度は「支部」結成を支援すべく「支部結成準備費用(10万円)」が予算化されました。同窓生の皆さん大いに活用しようではありませんか？

一杯やってお金がもらえる!?

中には既に「支部」を結成して活動されている同窓生もいらっしゃると思いますが、全体的にはまだまだ低調のようです。

「湖鳥会」の同窓生は企業との関係でどうしても都市部に多く、鳥取は少ない様です。そこでまずは“地元”の鳥取で「支部」結成を推進しよう、という話になった訳ですが、あまり地方や企業にこだわることなく付き合い合えたらよいのではないかと考えています。

最近インターネットなる便利なものが普及してきました。同窓生の多くの方は、仕事に趣味に E-mail を大いに活用されていることと思います。同窓生どうしの E-mail を使った「ネット支部」も一考の価値があるのではないのでしょうか。でもインターネットじゃ一杯やれないか!

工学部のホームページも利用させて頂くことが出来るようなので「湖鳥会」の報告などを載せて行こうと考えています。「湖鳥会」を有意義に活用

し、地域や企業を越えて E-mail を大いに利用して、連絡や情報交換が活発になれば幸いです。



山根 一博様から

昭和 61 年 3 月 (第 18 回) 電気工学科卒業

現在、鳥取三洋電機(株)に勤務。

E-mail: kazuyama@tt.sanyo.co.jp

同窓生の皆様お元気ですか？私は、鳥取三洋電機の電子機器事業部に勤務しており、パソコンの開発に携わっております。あまり知られていないかもしれませんが、我社は、携帯型のパソコンでは、以前よりかなりの実績があります。パソコンの開発には、鳥取の会社ということもあり、電気・電子の卒業生 7 名も日夜世界一のパソコンの開発を目指して頑張っております。私の担当は、ファームウェアの設計です。取り敢えずそれまでの歴史を書かせていただきます。

私の大学時代は、勉強するでもなく、遊ぶでもなく絵に書いたような無気力な学生でした。丁度そのころパソコンブームで PC, MZ, FM といったパソコンがあり、友達にさそわれて若気の至りで MZ-700 を買ってしまいました。私にとってパソコンは、ゲーム機で、訳のわからない機械語を徹夜してひたすら入力していました。その私が、やっとプログラムの訳が解るようになったのは、研究室に配属されて、パソコンの設計を手伝わせて頂いたおかげです。

そして、鳥取三洋入社後 3 年間は回路設計を行っていましたが、その後何の弾みか、ファームウェアの設計を行なわせて頂いております。パソコンと言えども、最近の CPU は速くなり、その有り余った能力でもって MultiMedia を合言葉に、パソコンという小さな世界から家電(ゲーム、ワープロ、

FAX, Audio, Visual, 通信, etc.) の世界に徐々に進出していっています。したがって、毎年新しい分野の技術を学ぶことが出来ます。また、パソコンの本場が米国ということもあり、自宅から出たこともなかった私も、時々米国暮らしをさせていただくことがあります。といっても合計しても1年ほどですし、あまり英語は分かりませんので、誤解があるかもしれませんが、実際に米国で生活することにより、人種の多様さ・考え方の多様さを身を持って体験する事が出来て、世界観が変わりました。ちょっと国際人になったような気がします。でも、鳥取に帰ると直ぐに鳥取人に戻りますが、このように、現在大変おもしろく仕事をさせていただいております。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

吉田清春様から

昭和57年3月(第4回)電気工学科卒業

現在、鳥取三洋電機(株)勤務。

E-mail: kyoshida@tt.sanyo.co.jp

私は、鳥取三洋電機の通信オーディオ事業部なる所に勤務しております。通信オーディオとは言っても、その名の通りの仕事をしたのは、勤務して約2年の間だけで、その後は、皆様ご承知の円高により、日本製の音響製品は姿を消して行きました。私の同期生も先輩も転属等でやはり姿を消してしまっただけでした。

暗い過去の話はこれくらいにして、私の現在の仕事の話に移りましょう。約10年前から、私は、LEDを使った電光表示板の回路設計に携わっています。街を歩けばあちらこちらでチカチカしているあれの小型のやつです。都会の路地へ入ればよく見かけるのですが…。鳥取でも駅前コンビニのビルの上に3台付いています(これが、私達が設計したものです)。私達と申しましたのも、私と同じ研究室(電気応用)出身の1年後輩が、ファームウェアの設計をしているもので…。

さて、それでは個人的な事も報告させて頂きま

しょう。実は私、パソコンが好きでして、学生の時に一世を風靡したシャープのMZ-80Kというパソコンを皮切りに、98やIBMに惑わず、APPLEのMacintoshにのめり込みまして、今では4台のMacのオーナーとなっております(4台目はついこの間手に入れたところです)。女房にも、皆からもあきれられていますが、宗教と同じで(巷ではMac教と呼んでいます)…、お布施をしなければ気が済まないというやつですよ。私も、この10年間に布教をして廻り、いったい何人を入信させたかと、気がとがめる? 思いです。Mac教の信者の方、情報交換をしませんか? ハハハ。

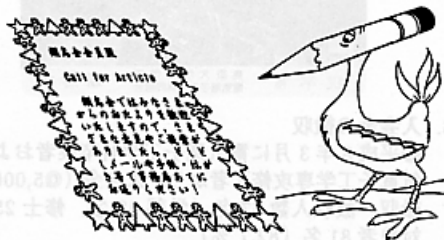
最後になりましたが、「湖鳥会」の皆様のご健康をお祈り致します。



電子メールアドレス

会長および学内幹事の電子メールアドレスを以下にのせておきます。湖鳥会へのご意見やこの欄での記事等がありましたら連絡お願いいたします。

氏名	電子メールアドレス
鷲見 育亮	ysumi@tt.sanyo.co.jp
大木 誠	mohki@ele.tottori-u.ac.jp
岸田 悟	kishida@ele.tottori-u.ac.jp
藤村 喜久郎	fujimura@ele.tottori-u.ac.jp
田中 省作	tanaka@ele.tottori-u.ac.jp
北川 雅彦	kitagawa@ele.tottori-u.ac.jp



平成7年度事業報告および平成8年度事業計画

平成7年度事業報告

1. 会員名簿の管理

- 住所不明者の調査を実施。

データベース登録者 合計：2068名

電気工学科 卒業生 : 957名

電子工学科 卒業生 : 808名

電気工学専攻 修了者 : 167名

電子工学専攻 修了者 : 57名

電気電子工学科 卒業生 : 303名

電気電子工学専攻 修了者 : 351名

データベース未登録者合計 : 48名

- 会員名簿(平成7年12月発行)のための内容改訂作業を実施。

- 次期会員名簿(平成10年12月発行予定)の管理を実施。

2. 同窓会設立基金の徴収

- 平成7年度(1995/4/1-1996/3/31)の間に10名の方が同窓会設立基金を納入。

- 現在までの実績:名522名/1,903名(27.4%)

(尚、設立基金徴収対象者はH3までの電気工学科、電子工学科、電気工学専攻、電子工学専攻の各卒業、修了者の1903名のみ。)

3. 会報「湖鳥会会報 No.4」の発行

- 湖鳥会会報 No.4を平成7年12月に発行し、全会員に配布。

4. 会員名簿の発行および配布

- 会員名簿を平成7年12月に発行し、名簿配布対象者に配布。

5. 記念品の作成

- 新規入会手続き時に配布するときの記念品として、鳥取大学上空からの航空写真を入れたテレホンカードを300枚作成。(岡本幹事、山根幹事)



祝卒業 鳥取大学工学部 電気電子学科同窓会 湖鳥会

6. 入会金の徴収

- 平成8年3月に電気電子工学科卒業生および電気電子工学専攻修了者から、入会金(⑤5,000)を徴収。徴収人数67名(学部42名、修士25)/対象者81名(82.7%)

- 同時に、名簿、湖鳥会会報 No.4、記念品(テレホンカード)を配布。

- 卒業後の住所を調査を実施。

- 会費の未納者の確認を実施。

7. 工学部同窓会との連携

- 工学部30周年記念事業準備委員会に参加(岸田、大木)

- 工学部同窓会幹事会に参加(岸田、大木)

- 工学部同窓会海外渡航奨学金審査委員会に参加(大木)

8. 平成8年度理事会の準備

- 開催通知、事業報告、事業計画、会計報告、予算案などの作成。

9. その他

- 広く会員からの意見を受け入れ、会員相互の親睦のための活動を実施。

平成8年度事業計画

1. 会員名簿の改訂及び管理

- 住所不明者などを調査し、同窓生データベースを管理します。

- 各研究室毎に卒業生の現住所を調査・改訂します。

- 次回の名簿発行予定は平成10年12月(1998.12)です。

2. 入会金の徴収および記念品の配布

- 平成9年3月(1997.3)に電気電子工学科(第5回)卒業生、電気電子工学専攻修了者から、入会金を徴収します。

- 同時に、平成7年(1995)発行の名簿、湖鳥会会報 No.4, No.5、記念品(テレホンカード)を配布し、卒業後の住所を調査します。

3. 湖鳥会会報 No.5 の発行(12月)

- 今年度のスケジュール(案)

8月 基本方針検討・決定

9月 各原稿依頼

10月 原稿締切

11月 印刷

12月 発行

4. 工学部同窓会との連携

- 工学部同窓会幹事会への参加

- 工学部同窓会海外渡航奨学金審査委員会への参加

5. その他

- 広く会員からの意見を受け入れ、会員相互の親睦のための活動を行います。

平成7年度決算報告および平成8年度予算案

平成7年度決算報告

平成8年度予算案

収入（1995.4.1～1996.3.31）

項目	予算	実績	備考
設立基金	0	100,000	10件
入会金	400,000	335,000	67名
会費	3,000,000	1,482,000	247名
その他	0	90,000	利息
小計	3,400,000	(1)2,007,000	

収入（1996.4.1～1997.3.31）

項目	平成7年度決算	平成8年度予算
設立基金	100,000	0
入会金	335,000	400,000
会費	1,482,000	1,200,000
その他	90,000	0
前年度繰越金	3,650,233	2,790,561
合計	5,657,233	4,390,561

支出（1995.4.1～1996.3.31）

項目	予算	実績	備考
会報・名簿	2,400,000	1,860,165	
記念品	600,000	243,618	テレカ
アルバイト	150,000	90,750	
事務費	20,000	12,719	
会議費	60,000	37,000	
通信費	50,000	7,000	
工30周年寄付	0	600,000	
その他	50,000	15,420	振込料
小計	3,330,000	(2)2,866,672	

支出（1996.4.1～1997.3.31）

項目	平成7年度決算	平成8年度予算
名簿・会報	1,860,165	500,000
名簿管理と アルバイト代	90,750	100,000
記念品	243,618	300,000
支部結成準備費	0	100,000
事務費	12,719	20,000
会議費	37,000	50,000
通信費	7,000	50,000
工30周年寄付	600,000	0
その他	15,420	50,000
次年度繰越金	2,790,561	3,220,561
合計	5,657,233	4,390,561

決算（1995.4.1～1996.3.31）

(3)1995年度収支 (1)-(2)	△ 859,672
(4)1994年度繰越金	3,650,233
(5)1996年度繰越金 (3)+(4)	2,790,561

預貯金残高（1996.3.31現在）

郵便局 振込口座（設立基金）	477,120
郵便局 振込口座（会費）	767,180
郵便局 定額貯金	1,000,000
郵便局 普通貯金	93,303
銀行 普通預金	452,958
合計	2,790,561

- 工学部30周年事業への寄付は平成7年度予算に組み入れておりませんが、理事会での決議の上でございました。
- 工学部30周年事業で発行した名簿の原稿が一部使用できたので名簿発行の費用が少なく済みました。
- 平成8年度は新たな展開として、新校舎の写真入りテレホンカードを作成し有償で配布する予定です。
- 支部結成準備費を設けていますので、ご利用お待ちしております。申し出は会長または幹事経由でお願いいたします。

湖鳥会からの連絡

会長より一言

湖鳥会の皆様、ここに連続第5号の会報を発行できますことを、湖鳥会を代表して感謝申し上げます。当初無理と思われていた毎年発行を、会員皆様の暖かいご支援とご要望に沿えるよう編集委員で奮闘いたしました。そして、今年は、新しい試みもなされおります。今後ともますます充実した同窓会活動の一翼を担う会報に、会員皆様の更なるご支援（会報への原稿送付・会費納入等）をお願いします。

湖鳥会 会長 鷺見 育亮

WWW ページの開設

湖鳥会もインターネット上でWWWによる情報発信をする予定です。現在はまだ、水面下で計画中ですが、この会報が届くころには一部できているかもしれません。学科のアドレス“<http://ampere.ele.tottori-u.ac.jp>”または電子素子応用研究室のプライベート・サーバー“<http://160.15.17.76/>”から辿っていけるようにしておきますので、お楽しみに！

湖鳥会 幹事 一同

新築校舎の記念テレホンカード

湖鳥会から平成9年1月に完成予定の新築校舎の写真入り記念テレホンカードを会員の方を対象に有償で配布しようという計画が持ち上がっています。価格は送料込で¥1,500/枚、全300枚作成という案を想定しています。希望が多ければ実現しそうなのですが？ご意見があれば、学内幹事まで電子メール等で連絡をください。

湖鳥会 幹事 一同

会費納入のお願い

湖鳥会は皆様の納入された会費により運営されています。この会報、名簿の発行、各種行事への参加なども集めた会費があればこそできるものです。会費の納入は前年度平成7年でしたが、思うように集まっておりませんので、どうか納入にご協力お願いいたします。なお、会費未納の方は封筒に記載されている会員番号の下2桁の数字（00が付いている）でわかります。

湖鳥会 会計担当者

編集者の声

湖鳥会会報の第5号が完成し、皆様のお手元に配送することができました。記事を書いていただいた関係者各位および編集に協力していただいた教職員および学外関係者の皆様に感謝いたします。ところで、今回の会報はほとんどの原稿を電子メールで集め、画像はイメージ・スキャナやデジタル・カメラでコンピュータに取り込み加工した上で、全体的な組版・編集を日本語 \LaTeX でおこないました。したがって、レイアウト全体はすっきりとしたものになり、見易いものとなったと思います。

湖鳥会 編集委員 一同

藤村 喜久郎, 鷺見 育亮, 大木 誠, 田中 省作, 岸田 悟

鳥取大学電気電子工学科同窓会

「湖鳥会」事務局連絡先

〒680

鳥取市湖山町南4丁目101番地

鳥取大学 工学部

電気電子工学科 気付

電気電子工学科同窓会 「湖鳥会」

TEL: 0857-28-0321 (代)

FAX: 0857-31-0880